時事新報

災害地の醫藥尚ほ足らざる可し

今回の震災に就て救助の手段一日も猶豫す可らざる固より我輩の屢ば陳述したる所にして當局者を始め一般の社會に於ても必定其邊の計畫に怠らざるみとあらんなれども今日は實に遠急の場合にして其手段一日を緩ふすれば即ち一日の慘狀を甚しふするものあれば何は兎もあれ唯速に着手するを最第一の專務あれ又昨日の紙上に記したる衣服器具等日用の物品を募集して災害地に送るおとは誠に無造作にして而も其効能の著しきものなれば必ず之に着手する者もある可しとして扨又茲に至急の急は醫師派遣の一事なり死傷者の數と其事情は未だ委しき報知を得ざれども岐阜愛知の兩縣下を合算すれば必ず夥しきみとあらん死したる者は今更致方なけれども負傷者の始末は醫藥の外に手當ある可らず目下の有樣にては罹災の人民は差當り衣食にさへ支へる次第にして怪我人の治療おと迚も行屆く可き限りにあらず幸にして之に注意する者あるも幾千萬の患者を見ては醫者も足らず藥品も乏しくして看す〳〵死に陷らしめざるを得ず其慘酷の有樣は前日の雜報に見えたる名古屋病院の慘狀に徴するも一班を知るに足る可し手當さへ行屆け助かる可きものを醫藥の足らざるが爲めに死せしむるは恰も人を見殺にするものにして同胞の情に於て堪へざる所なり殊に今度の怪我人に限りて醫藥の需要多き其次第を云はんに戰爭の負傷は大抵就創金創の二種に外ならずして自から特殊の保備も叶ふみとおれども地震の怪我は種々無量にして其治療に最も難症おと多かる可ければ醫藥の手當は最も全備あらざる可らず又戰爭なれば負傷者の在る處も大抵何れの地と限りて治療の上より云へば好き始末なれども震災の區域は何十里に亘り唯一名の患者の爲めにも道路を往來するおとあれば醫師の數は何程多きも不足を覺ゆるみとあらん開く所に據れば赤十字社にては既に醫員を派出し府下の開業醫師中にも自から出張し又は門弟子を遣りたる者もある由なれども右等の事情を以て迚も間に合ふ可しとも思はれざれば我輩は先づ第一に政府の筋より陸海軍の軍醫看病卒もしくは官立病院の醫員を派出し又は國費を以て府下の開業醫を雇ふて速に出張せしむるおとを希望し民間にては慈善家が私に醫師を雇ひ又は其醫師が自から書て施療の勞を取り有志者は傍らより藥品器械等の費用を供するおとも一法ある可し救助の事に就ては政府の筋に於ても既に支出の法を命令し又民間の義捐もあるみとなれば罹災者が辛ふして萬死の厄を免れながら餓塞に死するが如き患は萬々おれなかる可しと信ず所なれども助かる可き人命を手當の屆かざるが爲めに損するに至りては同胞の情に於て忍びざる所なれば世間に慈善義捐の挙あると同時に醫藥の手當十分ならんみと希望に堪へざるなり

官報

○内務省告示第五十五號

明治二十四年十一月四日

内務大臣子爵田中不二麿

明治二十四年十一月四日

内務大臣子爵品川彌二郎

○司法省告示第百二號

明治二十四年(七月)司法省告示第七十九號區裁判所出張所裁判廷場所管轄區域及期日表中左ノ通改定ス

地方	區裁判所	開廷場所	管轄區域	開廷期日
愛知	大河原	角田	角田町出張所管内一圓	從前ノ通
		亘理	亘理郡出張所管内一圓	
	古川	鹽館	築館 若柳	兩出張所管内一圓

雜報

○全村田畑收穫の差押と題して去る一日の本欄に揭げたる項中入附米の增額を小作人に申込みたりとある は誤りにして右は本年立見の際收穫の高に付見込を異にしたるより紛議を生じて遂に田畑收穫の差押を執行するに至りたるものゝ由なれば茲に前報の誤謬を是正す

○第二期の議會へ提出する豫算案の種目 昨年十二月三日政府より今二十四年度歳計豫算案として帝國議會に提出したるもの四種ありて即ち(第一)歳入出總豫算(第二)同追加(第三)各特別會計歳入出豫算(第四)豫算外國庫の負擔とあるべき契約を要するもの〻都合四通りあれども今度第二期の帝國議會へ提出する豫算案は左の三種にして追加豫算案は之あるといふ

一 明治二十五年度歳入歳出總豫算

二 明治二十五年度各特別會計歳入歳出豫算

三 豫算外國庫の負擔とあるべき契約を要するもの

○二十五年度豫算案の印刷出來期限 第二期の帝國議會へ提出する二十五年度の歳計豫算案は大藏省主計局にて謄製し一昨日迄には大半其原稿を印刷局に廻付し畢りたれども未だ閣議の決せざる爲めに原稿を同局へ差廻はす能はざるもの一二之ある由尤も之は全く一小部分の事なれば此の遲引の爲めに刷上の期日に迄影響するものにあらず而して大藏省にては來る十日を刷上げ製本の最終期日とし印刷局にても亦相違おく同日迄に仕上げんとて頭に印刷方を取急ぎ居れば同日中には いよ〳〵出來し豫算の閣議も夫より一兩日にして終決すべしといふ

○震災に對する內閣 今回愛知岐阜其他各地の震災は近來未曾有の一大損害を惹起したるみとにて其報の東京に達するや閣議は第一、目下飢寒に迫り又は負傷せしき者を夫々救助するみと第二、農民其他の職業に差支へるものには農具又は相當の資本を與ふるみと第三、今回の震災にて破損せし道路堤防抔も夫々修繕の方法を立つると此等には先づ愛知岐阜兩縣の備荒貯蓄金を支出し不足あれば固より國庫の臨時支出を爲す等にて必要の費用は差向き兩縣知事又は此救助に關係せる官吏より之を支拂ひ置くへきみとを命令する事に決し即ち松方總理大臣の旅行も此意を傳ふるためなりしと云ふ猶は同伯歸京の上は更に閣議を開き實際の情況に照らして斷然國庫の臨時支出を爲す積おりと聞けり

○笠松、竹ケ鼻の慘狀 岐阜縣下羽栗中嶋の兩郡は今回の罹災中最も甚だしき部分にして就中笠松、竹ケ鼻の兩地は震害火災並び至りて慘狀を極め人口比例に於ては其死傷の數遙かに岐阜大垣に過ぎ火中に燒死して其屍骸を見出さゝるものゝあるにより僧侶は市中を廻りて到る處遺族の叫哭する處に向を爲して共同墓地にて葬儀を行ふ由なれども其葬式は極めて簡略にして僅に一人の僧侶と一人の香烟だに供する事出來ず又負傷者の手當は醫吏醫師等の盡力に依て僅かに繃帶を施す位に止り戶板に横臥し苦痛を叫びつゝ攘がれ行くもの幾何あるを知らず兩地共傍の堤防より見れば一望曠野の如く茫々として只烟塵の揚るを見るのみなりと云ふ

○岐阜市參事會の議決 去る三十一日午前九時より岐阜市役所にて市參事會を開き今度の震災に乘じ不當の利を貪り諸物品を賣捌く者あるが爲め柴人の困難一方ならずとて玄米を買入れ之を監獄署にて搗かせ普通價格にて賣渡す事に決したり尙賣渡場所は公區地及び小熊尋常小學校の二ヶ所なり

○假小屋の住居人 去る二日の調査に依れば岐阜市にて今回の罹災者が公園病院前其他各所に假小屋を設けて住ひ居る人員は凡八千餘人なりと云ふ

○罹災者への禁出米 去る二十八日より本月一日正午十二時迄で罹災者救濟の爲め岐阜市の禁出場にて禁出したる玄白米總數凡そ百二十五俵ありと云ふ

○第十五國立銀行の義捐 震災救助費の內へとして昨日同銀行より二百圓外に役員諸氏より三十八圓本社へ送附し來りたり

○須藤吉右衛門氏の義捐 株式仲買ある同氏より震災地方義捐金として金百圓を本社へ送附せり

○石炭酸の寄贈 私立淺草病院長熊坂良平氏は岐阜愛知兩縣震災遭難者救助の爲め石炭酸十五磅日本赤十字社へ寄贈したき由にて昨日本社へ紹介を依頼したるにより本社は直に同社に該品を寄贈せり

○久喜町の義捐箱 埼玉縣久喜町の山口則一氏は此度の震災に付義捐金募集の爲め杉の一寸板にて縱三尺五寸橫三尺の箱を作り蓋の中央に差入口を設け南京錠を附け義捐金募集箱と大書したるものを同町中央の四ツ角關運送店の傍に備へ置き側に杉の四分板に左の如く記載し一昨日より義捐金募集に着手したる由にて來る十四日迄に其集り高を取纏め本社へ送附する旨申越しありたり

一客月二十八日の大地震は岐阜大垣愛知より延て十八縣へ強震し四國其他の數縣は微震を感じたるに止まるも岐阜愛知の慘狀は天下皆知る處おり依て罹災者に義捐せんとするものは幾錢にても此箱に投入すべし

一此箱へ十錢以上記名授入するものは其金額姓名を來る十四日迄日々左に記載し領收の證とす而して十五日には時事新報社に托し罹災者へ送附方を依頼する に付再び該新報紙上に其金額姓名を記載し領收證一に代ふるものとす

一十五日以後は義捐者の姓名を當地寺院等相當の場所に掲示し置くべし

○赤十字社の謝狀 私立藥學校同窓會より本社を經て赤十字社へ寄贈したる石炭酸に付昨日同社より左の謝狀を本社に送りたり

今回本社に於て愛知岐阜二縣震災負傷者救護に從事罷在候際貴社の御紹介を以て私立藥學校同窓會より石炭酸三十磅を寄贈相成本社の幸便不過之候仍て貴社の御厚意を拜謝致度不取敢此段得貴意候也

廿四年十一月四日 日本赤十字社

時事新報社 御中

○震災地々誌 東京圖書館中今回震災の甚しき地方に關する地誌は大略左の如しと

日本輿地志記(近江美濃尾張の部)
濃美輿地略史
濃美地誌略
近江輿地略
近江名所圖會
百々久想記
張州府志
張州史略
濃尾志略
岐阜志略
岐阜明細記
美濃明細記
美濃名所記
尾張國風土記
尾張名所圖會
尾張名所指南草
越前名所圖會
越中名事記

○外交官の發着 兼に公務の都合し公使館書記官兼領事杉村濬氏は去る向け出發、兼に歸朝を命ぜられたる事館書記生上野專一氏は一兩日前歸

○轉任を希望す 前橋地方裁判所にては兎角判事と檢事との間に折合宜しからざりしが今度檢事正鈴木忠告氏が岐阜へ轉任せしに付き或る部分にては獨り檢事のみを轉任せしむるは當を得ざる者あり依て其筋へ請願して是非共判事伊藤昌春氏をも轉任せしめんと目下々奔走し居る由なり又同地方人民は兩宮參部長近藤前橋警察署長の轉任を中村知事に請願せりと云ふ

○甲武鐵道延長に關する會合 山梨縣の有志者三十餘名發起とあり甲武鐵道延長の既わるを幸ひ此機に乘じ甲府まで該線路の達する樣充分の運動をなすべしとて來る八日甲府の盥仙閣に會合せんとの廣告を爲せり

○熊本米穀市場の賣買 熊本市場にて有名なる中嶋氏が何萬石にても買ふ丈賣らんと盲ひ張りしより同地の仲次人等は少しく不滿の體にて一同聯合し是より賣買の一大聚を始め一方は買ひ立んとし一方は賣下げんとして雙方ともに負けず劣らずの掛引をなせしが中嶋氏